

# 安全運転管理者関係の改正内容は これです！

令和4年10月1日施行

## 罰則の強化

安全運転管理者を選任していなかった場合や、解任命令に従わなかった場合の罰金が**10倍の50万円**に引き上げられました。

- 安全運転管理者等を選任していなかった場合  
【5万円以下の罰金→50万円以下の罰金】
- 安全運転管理者等の解任命令に従わなかった場合  
【5万円以下の罰金→50万円以下の罰金】
- 是正措置命令に従わなかった場合 【新設：50万円以下の罰金】
- 安全運転管理者等の選任等に関する届出を行わなかった場合  
【2万円以下の罰金又は料→5万円以下の罰金】



令和4年10月1日施行

## 是正措置命令の規定を追加

都道府県公安委員会が、自動車の使用者に対し、是正のために必要な措置をとるべきことを命ずることができるようになりました。  
是正措置命令に従わなかった場合には、罰則の対象となります。



### どんな場合が該当するんだろう？

夜間又は長距離の運転時における交替運転者を配置する権限を安全運転管理者に与えないことにより、運転者が過労による居眠り運転を起因する交通事故を起こした場合などが考えられます。

改正点

令和5年12月1日施行

## アルコール検知器の使用義務

「安全運転管理者に対するアルコール検知器を活用した使用義務化に係る規定」については、**令和5年12月1日**から、運転者酒気帯びの有無の確認にアルコール検知器を用いなければならないこととなりました。

アルコール検知器を使用した酒気帯びの有無の確認は暫定的に適用されていなかったけれど、期日までにアルコール検知器を使ったアルコール検査ができるように検知器を用意しておかなければいけないよ！



長野県警察

Q1 運転者が運転する度に酒気帯びの有無を確認することが必要ですか？

A1 安全運転管理者は、「運転しようとする運転者及び運転を終了した運転者」について酒気帯びの有無を確認することとされています。

ここでいう「運転」とは、一連の業務としての運転をいいます。

酒気帯びの有無の確認は、必ずしも個々の運転の直前又は直後にその都度行わなければならないものではなく、運転を含む業務の開始前や出勤時及び終了後や退勤時に行うことで足りります。

Q2 直行直帰の場合にも安全運転管理者が対面で酒気帯びの有無を確認する必要がありますか？

A2 酒気帯びの有無の確認の方法は対面が原則ですが、直行直帰の場合  
その他対面での確認が困難な場合にはこれに準ずる適宜の方法で実施  
すればよく、例えば、運転者に携帯型アルコール検知器を携行させるなど  
した上で、

- ① カメラ、モニター等によって、安全運転管理者が運転者の顔色、応答の声の調子等とともに、アルコール検知器による測定結果を確認する方法
- ② 携帯電話、業務無線その他の運転者と直接対話できる方法によって、安全運転管理者が運転者の応答の声の調子等を確認するとともに、アルコール検知器による測定結果を報告させる方法

等の対面による確認と同視できるような方法が含まれます。

Q3 使用すべきアルコール検知器の性能は決まっていますか？

A3 アルコール検知器については、呼気中のアルコールを検知し、その有無又はその濃度を警告音、警告灯、数値等により示す機能を有する機器であれば足りることとされています。安全運転管理者は、アルコール検知器を常時有効に保持することとされていることからアルコール検知器の製作者が定めた取扱説明書に基づき、適切に使用し、管理し、及び保守するとともに、定期的に故障の有無を確認し、故障がないものを使用しなければなりません。

Q4 運転者が個人購入したアルコール検知器を安全運転管理者が使用してもよいのでしょうか？

A4 酒気帯びの有無の確認に使用するアルコール検知器は、基本的には、自動車の使用者が購入すべきものであると考えられます。ただし、各事業所の個別の事情により、個人で購入したアルコール検知器を使用する必要がある場合には、安全運転管理者において、当該アルコール検知器が正常に作動し、故障がない状態であるかどうかの確認を定期的に行うなど、安全運転管理者が「常時有効に保持」するアルコール検知器と同等の管理が行われているものに限り、個人で購入したアルコール検知器を使用することは差し支えありません。

Q5 出張により一時的に他の事業所で社用車を用いることになりませんが、出張先の事業所において酒気帯びの有無の確認をしても行うことはできますか？

A5 同一の自動車の使用者が他の自動車の使用の本拠において安全運転管理者を選任しており、当該他の自動車の使用の本拠となる事業所(以下「他の事業所」といいます。)において運転者が運転を開始し、又は終了する場合には、他の事業所の安全運転管理者の立会いの下、運転者に他の事業所の安全運転管理者が有効に保持するアルコール検知器を使用させ、測定結果を電話その他の運転者と直接対話できる方法で所属する事業所の安全運転管理者に報告させたときは、酒気帯びの有無の確認を行ったものとして取り扱うことができます。

Q6 安全運転管理者以外の者が酒気帯びの有無の確認をすることは認められていますか？

A6 安全運転管理者の不在時など安全運転管理者による確認が困難である場合には、安全運転管理者が、副安全運転管理者又は安全運転管理の業務を補助する者(以下「補助者」といいます。)に、酒気帯びの有無の確認を行わせることは差し支えありません。

運転者に対する酒気帯びの有無の確認は、業務委託であっても差し支えありませんが、例えば、運転者が酒気を帯びていることを補助者が確認した場合には、安全運転管理者へ速やかに報告し、必要な対応等について指示を受けるか、安全運転管理者自らが運転者に運転者に対して運転中止の指示を行うとするなど、安全運転を確保するために必要な対応が確実にとられることが必要となります。

Q7 酒気帯びの有無の確認をした場合に、どのような内容を記録すればよいですか？

A7 以下の内容を記録し、及びその記録を1年間保存してください。

- (1) 確認者名
- (2) 運転者
- (3) 運転者の業務に係る自動車の自動車登録番号又は識別できる記号、番号等
- (4) 確認の日時
- (5) 確認の方法(対面でない場合は具体的方法等)
- (6) 酒気帯びの有無
- (7) 指示事項
- (8) その他必要な事項

## 安全運転管理者業務の確認日誌(例)

【1年保存】

	日付	確認者	運転者	自動車登録番号等	確認時間 (開始時)	確認時間 (終了時)	確認方法 <small>(検知器使用の有無・対面でない場合は具体的方法)</small>	酒気帯びの有無		指示事項	その他必要事項
								開始時	終了時		
記載例	4月1日	ライポ太郎	ライポ次郎	長野300な●●●●	8:00	17:15	検知器で確認	無	無	交差点における確実な安全確認の励行を指示	運行前点検を指示

※ 安全運転管理者の確認項目を充足した日誌となります。参考としてください。